



LINE を業務上利用するに当たっての注意点 (IRSME13006)

平成 25 年 5 月 20 日 原田長州

LINE は、LINE 株式会社が提供する無料通話 & メールアプリ。主にスマートフォン用のアプリとして利用されている。LINE のアプリダウンロード・説明画面には、“世界 231 ヶ国、登録ユーザー数 1 億 5000 万人突破！”(2013 年 5 月 20 日現在)とあり、日本だけではなく世界中でも多く利用されている人気アプリである。

グループ機能を使い最大 100 名までの規模でグループ内に一斉メッセージを送ることで、SNS (social networking service) と類似の機能を持つ。また、スタンプと呼ばれる絵文字でも写真でもないユニークな画像を送ることができる。これらの電話でもメールでもない機能を活用することにより、1 対 1 もしくは 1 対多のコミュニケーションができるとして利用シーンは急拡大している。プライベートな友人間から、企業対個人というスタイルも生まれている。

企業内部の活動においても、外勤メンバー間で手軽なメッセージツールとしての利用が始まっている。企画開発部門でもプロジェクトごとにグループを作成、プロジェクトの進捗状況を記録し共有されている。また、若い世代の利用度が高いため、年上の上司に対し電話やメールでは話しにくいことを相談するときのツールとしても利用されている。

■ 業務利用上の懸念

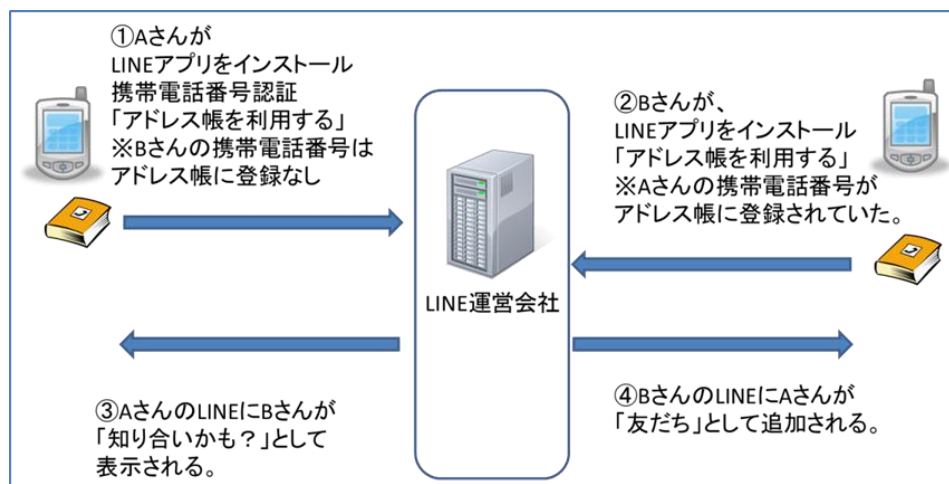
このように急速にビジネスシーンに浸透しつつある LINE だが、便利さ、手軽さを優先するあまり、個人情報流出するなどコンプライアンス上の懸念がある。この点について LINE 社が公開している安全への取り組みページ (※1) で案内されている内容をもとに、次項以降では特にプライバシー面での利用時に留意したい点を解説する。

※1. LINE 安心安全ガイド - 弊社の安全への取り組み

<http://line.naver.jp/safety/ja/initiatives.html>

■ “友だち”の自動登録機能

しばしば『アドレス帳のデータを全て持って行かれるらしい』と話題になるが、アドレス帳を利用した“友だち”の自動登録機能を整理すると以下ようになる。これを正しく理解し設定を変更することで意図しない“友だち”登録を防ぐことができる。



■ アドレス帳の利用の有無

初回設定時に「携帯電話番号による認証」を選択した場合、ユーザーネームとそのスマートフォンの電話番号を LINE 運営会社のサーバーに登録することに同意している。

次に「アドレス帳を利用する」とした場合、そのスマートフォンのアドレス帳の内容を LINE 運営会社のサーバーにコピーすることに同意していることになる。

サーバー側で既に登録されている携帯電話番号と紐付けを行い「友だち」「知り合いかも?」として表示される。友人間では便利な機能だが、業務上でも利用している携帯電話の場合には、アドレス帳にある取引先の社長の携帯電話番号も利用されることになる。その社長にとって不都合な相手にまで LINE を利用している事実が伝わってしまう危険性が発生するのである。

登録時には「今は利用しない」という設定が可能であり、アプリにアドレス帳情報の参照をさせないことができる。業務利用の場合はこの設定にしておきたい。

■ ID 検索の許可

LINE の ID が判明していると、検索することで“友だち”として登録することができる。これも、意図しない相手から自分を特定されてしまう危険性と裏腹である。これを避けるには「ID 検索を許可」設定をオフにするとよい。これにより他人が ID で検索してもヒットしなくなる。

■ “友だち”自動追加

アドレス帳の連絡先を利用して自動で LINE 上の「“友だち”に追加する・しない」を設定できる。サーバー上での紐付け結果がここで利用されている。アドレス帳にプライベート上の友人以外の携帯電話番号が含まれているときには、自動追加しない設定にすることが望ましい。

■ “友だち”への追加を許可

「“友だち”への追加を許可」とは、反対に自分の電話番号をアドレス帳に登録している利用者の“友だち”に自動で追加することを許可するかどうかの設定を行うもの。これもサーバー上で紐付けが行われるため、アドレス帳に友人以外の携帯電話番号が含まれているときには、自動追加しないに設定することが望ましい。

■ まとめ

携帯電話番号認証を利用した初期設定を行った場合、アドレス帳の取り扱いについて細心の注意が必要になる。利便性のために信用を失っては元も子もない。しかし機能を正しく把握しておけば、どのような設定にすれば自分の望む状況で利用できるかが理解できるため、無用なコンプライアンス事故を未然に防ぐことができるだろう。

なお、初回設定時に携帯電話番号認証ではなく、Facebook 認証を利用することで比較的簡易に安全なプライバシー設定を行えることも覚えておきたい。(了)